

日本語用論学会

第15回(2012年度)大会プログラム

日時 2012年12月1日(土) / 12月2日(日)

会場 大阪学院大学 2号館

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

Tel : (06) 6381-8434

大学HP : http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/cl_frame/index.html

アクセス : http://www.osaka-gu.ac.jp/campus/cl_frame/index.html

JR 東海道本線「岸辺駅」・阪急京都線「正雀駅」ともに大学まで徒歩5分。

(1) 阪急電車「河原町駅」から「茨木市駅」経由で「正雀駅」まで 41分

(2) JR「京都駅」から「高槻駅」経由で「岸辺駅」まで 32分

(3) JR「大阪駅」から「岸辺駅」まで 12分

(4) JR「新大阪駅」から「岸辺駅」まで 8分

大会スケジュール(要旨)・会場案内

1日(土)

8:30~ 大会受付
9:00~ ワークショップ
10:50~ 開会式
11:00~ 会長就任講演
12:15~ ポスター発表
14:00~ 研究発表
16:30~ 基調講演
18:15~ 懇親会

2日(日)

8:30~ 大会受付
9:00~ 研究発表
11:30~ 会員総会
13:00~ 招待講演
14:50~ 特別シンポジウム
16:50~ 閉会式

大会受付 2号館 1階ロビー(初日8:30~大会終了まで)

書籍展示 2号館 地下1階廊下

休憩室 2号館 地下1階ラウンジ

大会本部 2号館 [02-02-02]

昼食場所 (当日配布のランチマップをご覧ください。)

12月1日(土曜日)

ワークショップ (9:00~10:40)

A会場 ワークショップ1 [02-B1-02]

若者ことばに見られる語用論的特徴

司会：尾谷昌則(法政大学)

1. 若年層におけるネオ敬語「ス」の使用動機について 呉 泰均(北海道大学大学院)
2. 若者言葉における略語—渋谷系(ギャル語)を中心に— 黒田一平(京都大学大学院)
3. 「適当」と「最高」がカタカナ表記される動機の違い—関連性理論からの分析—
吉田充良(法政大学大学院)

B会場 ワークショップ2 [02-B1-01]

Hemingway 作品を読み解く—語用論、文体論、認知言語学の接点を求めて—

司会：深田 智(京都工芸繊維大学)

コメンテーター：大沼雅彦(聖トマス大学)

1. 表現と省略の構図—“Indian Camp”における文体と物語のなぞ—
山口治彦(神戸市外国語大学)
2. 文学と言語学の狭間でヘミングウェイを読む—揺れ動く解釈と登場人物の心理—
倉林秀男(杏林大学)
3. 視座と〈見え〉から Hemingway 作品に迫る
深田 智(京都工芸繊維大学)

C会場 ワークショップ3 [02-B1-04]

語用論研究から日本語教育へ、日本語教育から語用論研究へ

司会：名嶋義直(東北大学)

1. 聞き手が示す共感—聞き手の感想が付け加えられた場合— 小山友里江(名古屋大学大学院)
2. 日本語学習者のポライト・ネスストラテジーに関する—考察—
梅木俊輔(東北大学大学院)
3. インドネシア人のコミュニケーション・ストラテジーについての—考察—
—接触場面でのコミュニケーションを円滑に進めるために—
エミ・インダーブリヤンティ(東北大学大学院)

D会場 ワークショップ4 [02-03-01]

コンテキストから見た動詞の意味解釈をめぐる：過程構成の参与要素と過剰核部に

関する日英語の対照研究

司会：龍城正明(同志社大学)

1. 日英語の動作動詞文に関する—考察— 綾野誠紀(三重大学)
2. コンテキストから見た英語の起動的/他動的解釈の—試案— 鷲嶽正道(愛知学院大学)
3. 日本語の能格動詞に関する—考察—：過程構成と主題構造の関係から
藤田 透(同志社大学大学院)

開会式 (10:50~11:00)

[A会場 02-B1-02]

会長就任講演(11:00~12:10)

[A会場 02-B1-02]

司会 山本英一 (関西大学)

講演者: 林 宅男 (桃山学院大学)

講演題目: "Conceptualization as the sign's effect: how polite utterances come to be produced"

ポスター発表 (12:15~13:55) [1階ロビー]

1. Cross-Cultural and Interlanguage Research on the Speech Act of Disagreement Responses
YU, Ming-Chung (National Chengchi University)
2. 恩恵の受領を表す動詞の意味分化—日本語の「もらう」と韓国語の「patta」との対照から
安 薫連 (名古屋大学大学院)・堀江 薫 (名古屋大学)
3. 「他者受益の授受補助動詞『てもらう』文」
関根和枝 (昭和女子大学大学院)
4. ニュース報道での「[VN (動名詞) / N (名詞)] +です」表現について ~「イチロー選手が電撃移籍です」「尖閣諸島で新たな動きです」~
田中伊式 (NHK 放送文化研究所)
5. 韓国語の連体形「kes-kathun」の終止形化と語用論的拡張—日本語の連体形「みたいな」との対比を通じて—
呉 守鎮 (名古屋大学大学院)・堀江 薫 (名古屋大学)
6. レトリックと受身
原 江利 (放送大学 (学部))
7. 連辞型響鳴におけるトークンと生起傾向
伊澤宜仁 (慶應義塾大学大学院)
8. Gender-related variation in the responses to criticisms: A contrastive study of Taiwanese and American speakers
TUAN, Huitsen Jeanne (Shu-te University)
YAO, Hui-mei (National Penghu University)
9. イギリス英語会話と日本語会話の言語 (非言語) 行為に対する印象: 母国語話者へのインタビューデータより
藤村ウィルソン香予 (安田女子大学)
10. Reconsidering future tense markers in Indonesian
MIYAKE, Yoshimi (Akita University)
11. Comparing self-face and group/family-face with reference to Korean apologies
HAHN, Jee-Won (Pukyong National University)
12. Understanding Editorial Cartoons via Cognitive Models
SHU-PEI, Hsiao (National Taiwan University)
13. 会話の推意としての'proximal'—尺度推意を用いたコ系とア系の分析—
平田末季 (北海道大学大学院)
14. 日本語と中国語における「ほめ」表現—目上への「ほめ」行動の比較—
楊 一林 (金沢大学大学院)
15. 合コンにおける「褒め」の分析—ポジティブ・ポライトネスの観点から—
谷 智子 (三重大学)・大塚正子 (大阪大学大学院)
16. 日本語名詞句トートロジー再考: 「AはAだ」
山本尚子 (奈良女子大学)

研究発表 (14:00~16:25)

A 会場 [02-B1-02] 英語発表

- ① 14:00-14:35 ② 14:35-15:10 ③ 15:15-15:50 ④ 15:50-16:25

Chair: KOYAMA, Tetsuharu (Kyoto Notre Dame Univeristy)

1. A Study of Impoliteness in *Kang Xi Lai Le* from the Perspective of Adaptation Theory
HUANG, Mei Ling (Providence University)
2. A Presupposition Study on News Anchors Language: A Case Study of Next TV
WANG, Cong Wei (Providence University)

Chair: YAMAMOTO, Eiichi (Kansai University)

3. A Comparative Study of the Corpora for General and Specific Purposes for a Pragmatic Study
SUZUKI, Toshihiko (Waseda University)
4. Characteristics of descriptive texts produced by intermediate and upper-intermediate learners of English
YAMADA, Yoko (Kansai Gaidai University)

B 会場 [02-B1-01] 日本語発表

- ① 14:00-14:35 ② 14:35-15:10 ③ 15:15-15:50 ④ 15:50-16:25

司会：北爪佐知子 (近畿大学)

1. 日本語の促音便形複合動詞の構造と意味形成
史 春花 (神戸大学大学院)
2. 現代英語における話し言葉と書き言葉の文法的差異に関する語彙的な研究—主語省略と知覚動詞
柴田かよ子 (京都府立大学大学院)

司会：谷ロー美 (京都大学)

3. マスメディアの科学ディスコースに現れる数値表現の認識—数値間の相違性に依拠した論証に着目して—
出口由美 (関西大学大学院)
4. アメリカ英語における定形節補部を伴う連結詞的知覚動詞の使用の発達について： The Corpus of Historical American English の調査に基づいて
中村文紀 (慶應義塾大学)

C 会場 [02-B1-04] 日本語発表

- ① 14:00-14:35 ② 14:35-15:10 ③ 15:15-15:50 ④ 15:50-16:25

司会：岡本雅史 (立命館大学)

1. 多重質問の sarcasm と修辭性
後藤リサ (奈良女子大学博士研究員/関西外国語大学非常勤講師)
2. 日英語話者の事態把握と「(反語) 命令文」の認知語用論研究
佐藤晃紀 (札幌大学大学院)

司会：森山由紀子 (同志社女子大学)

3. 視点、文脈と指標性—英語指示詞における聞き手への視点移動の現象を中心に—
澤田 淳 (青山学院大学)
4. 「左と右の周辺部 (Left and Right Peripheries)」と「主観性・間主観性」との関係は?—歴史語用論における考察
小野寺典子 (青山学院大学)

D 会場 [02-03-01] 日本語発表

① 14:00-14:35 ② 14:35-15:10 ③ 15:15-15:50 ④ 15:50-16:25

司会：田中廣明（京都工芸繊維大学）

1. 直接的認識表現やハリの生成過程：日本語の「含過程構造」のコード化
氏家洋子（ノートルダム清心大学）
2. on the contrary の意味と対立関係
黒川尚彦（大阪工業大学）

司会：五十嵐海理（龍谷大学）

3. 「XのほうがもっとPだよ」中の「もっと」の語用論的機能
森 貞（福井工業高等専門学校）
4. 談話標識 I mean の意味体系とその使用原理
小林 隆（金沢大学大学院）

E 会場 [02-03-02] 日本語発表

① 14:00-14:35 ② 14:35-15:10 ③ 15:15-15:50 ④ 15:50-16:25

司会：井上逸平（慶應義塾大学）

1. 中国語の指示詞による総称表現について—英語との比較を兼ねて
劉 羸（京都大学大学院／日本学術振興会）
2. be lined with について
黒宮公彦（大阪学院大学）

司会：須賀あゆみ（奈良女子大学）

3. 日本語の一人称語の人称転換と消費者の自己実現
西田光一（下関市立大学）

基調講演(16:30~18:00) [A 会場 02-B1-02]

司会 加藤重広（北海道大学）

講演者：Professor Charles L. Briggs（University of California, Berkeley）

講演題目：“The Pragmatics of Discourse about Global Circulation”

懇親会（18:15~20:00）

会場：17号館 1階 職員食堂

会費：3,000円

（交流と議論の場です。お一人でもご遠慮なく。）



12月2日（日曜日）

研究発表（9:00~11:25）

A 会場 [02-B1-02] 日本語発表／英語発表

① 9:00-9:35

② 9:35-10:10

③ 10:15-10:50

④ 10:50-11:25

Chair: KUBO, Susumu (Matsuyama University)

1. 日本語名詞句の INDEFINITENESS のかたちについて—素名詞句と叙述名詞句
中井延美（明海大学）

2. Concession in the academic context: power and expertise factors

LYDA, Andrzej (University of Silesia)

Chair: NISHIYAMA, Yuji (Meikai University)

3. Subjunctive wh-questions (in German)

MÜLLER, Sonja (Universität Bielefeld/Georg-August-Universität Göttingen)

4. The meaning and use of utterance situation-based comparison in Japanese

SAWADA, Osamu (Mie University)

B 会場 [02-B1-01] 英語発表（前半） & 日本語発表（後半）

① 9:00-9:35

② 9:35-10:10

③ 10:15-10:50

④ 10:50-11:25

Chair: SCHOURUP, Lawrence (Osaka Prefecture University)

1. A quantitative analysis of noncanonical *though* clauses in naturally occurring discourse

MIZUNO, Yuko (Asahikawa National College of Technology)

2. The Discourse Marker "So" in American Media: Teleology Marking in Interaction

O'NEAL, George (Niigata University)

司会：福田一雄（新潟大学）

3. John looks happy./I saw John happy. 視覚に関する2つの知覚動詞構文における事態把握のパターン
徳山聖美（神戸市外国語大学大学院）

4. 認知叙述類型論の試み：英語の中間構文・他動詞-able 構文と日本語の能動的・受動的構文の事例
對馬康博（札幌大学）

C 会場 [02-B1-04] 日本語発表

① 9:00-9:35

② 9:35-10:10

③ 10:15-10:50

④ 10:50-11:25

司会：鍋島弘治朗（関西大学）

1. 言葉遊びから生じる発話のカー洒落が馱洒落となる場合の文法的及び語用論的条件—

小松原哲太（京都大学大学院／日本学術振興会特別研究員）

2. 英語広告表現におけるメタ言語否定・意味反転・共有知識からの逸脱に関するズレの階層性

有光奈美（東洋大学）

司会：山口治彦（神戸市外国語大学）

3. クロージング場面におけるリスナーシップ：日本語会話における笑いと共感の関係

難波彩子（岡山大学）

4. 主語名詞句が左方転位化されている日英語の左方転位構文

海賓康臣（立命館大学客員研究員）

D 会場 [02-03-01] 日本語発表

- ① 9:00-9:35 ② 9:35-10:10 ③ 10:15-10:50 ④ 10:50-11:25

司会：金水 敏（大阪大学）

1. Semantic Extension of Verb SHIMAU-From a Grammaticalization Point of View-
張 又華（京都大学）
2. 文末が名詞で終わる報告・引用表現
大西美穂（名古屋大学）

司会：神田靖子（大阪学院大学）

3. 「ナイカ」と「ナイノカ」—日本語否定疑問文におけるノダの語用論的機能
亀山里津子（大阪大学大学院）
4. 談話における「よね」の機能—対話的用法と共話的用法に注目して
大久保加奈子（京都府立大学大学院）

E 会場 [02-03-02] 日本語発表

- ① 9:00-9:35 ② 9:35-10:10 ③ 10:15-10:50 ④ 10:50-11:25

司会：余 維（関西外国語大学）

1. “你说” “我说”
汪 宇（東京福祉大学）
2. 不満表明の日中対照研究：性差を中心に
莫 曉雪（名古屋大学大学院）

司会：名嶋義直（東北大学）

3. 「褒め」に対する日本人英語学習者の応答—海外語学研修の前と後の会話を資料として—
山本綾（豊橋技術科学大学）
4. ロシア人日本語学習者が依頼に対する「断り」のストラテジーを選択する要因
ブラーエヴァ・マリア（名古屋大学）

総会 (11:30~12:00) [A 会場 02-B1-02]

司会：山本英一（事務局長）

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 会長挨拶 | 林 宅男（桃山学院大学） |
| 2. 会計報告 | 五十嵐海理（龍谷大学） |
| 3. 編集委員会報告 | 山口治彦（神戸市外国語大学） |
| 4. 事務局長報告 | 山本英一（事務局長） |

招待講演 (13:00~14:40) [A会場 02-B1-02]

司会：東森 勲（龍谷大学）

講演者：Professor Michael Rundell (Editor-in-Chief, Macmillan dictionaries)

講演題目：“Corpora, dictionaries and pragmatics: challenges and oportunities in the age of e-lexicograph”

シンポジウム (14:50~16:50) [A会場 02-B1-02]

テーマ：“Corpus Linguistics and Pragmatics”

講師：松本祐治（奈良先端技術大学院大学）“Corpus-driven Contextual Processing”

講師：石川慎一郎（神戸大学）“Interface of corpus linguistics and pragmatics”

指定討論者：堀江 薫（名古屋大学）

指定討論者：Professor Michael Rundell（Editor-in-Chief, Macmillan dictionaries）

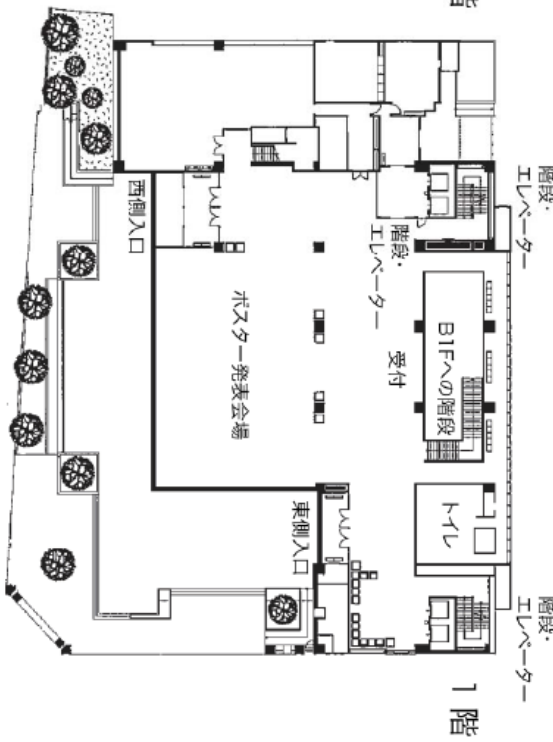
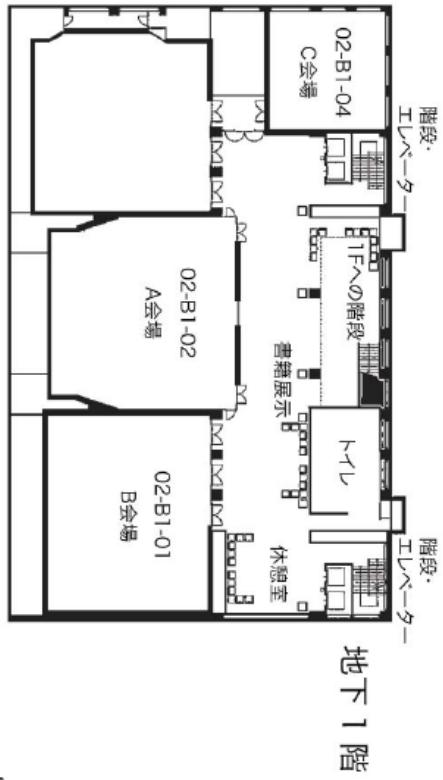
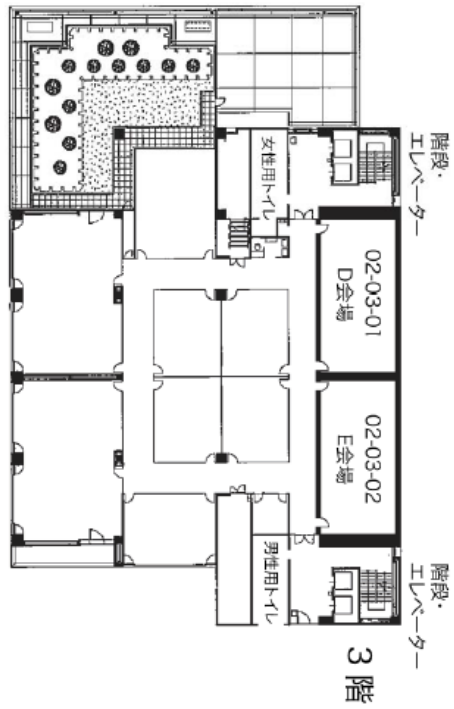
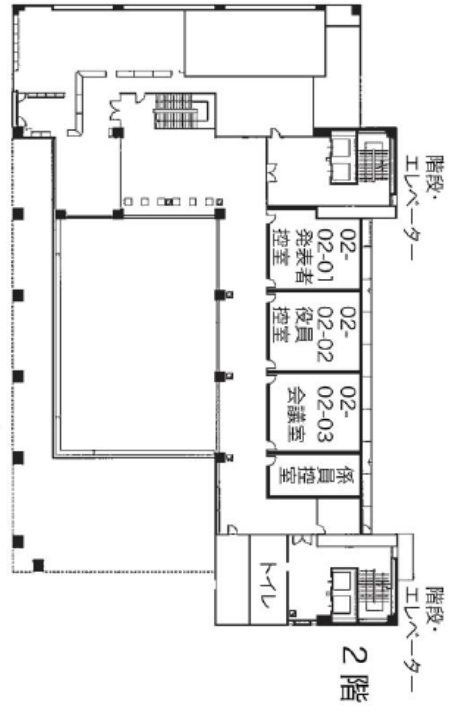
司会：久保 進（松山大学）

閉会式 (16:50~17:00) [A会場 02-B1-02]

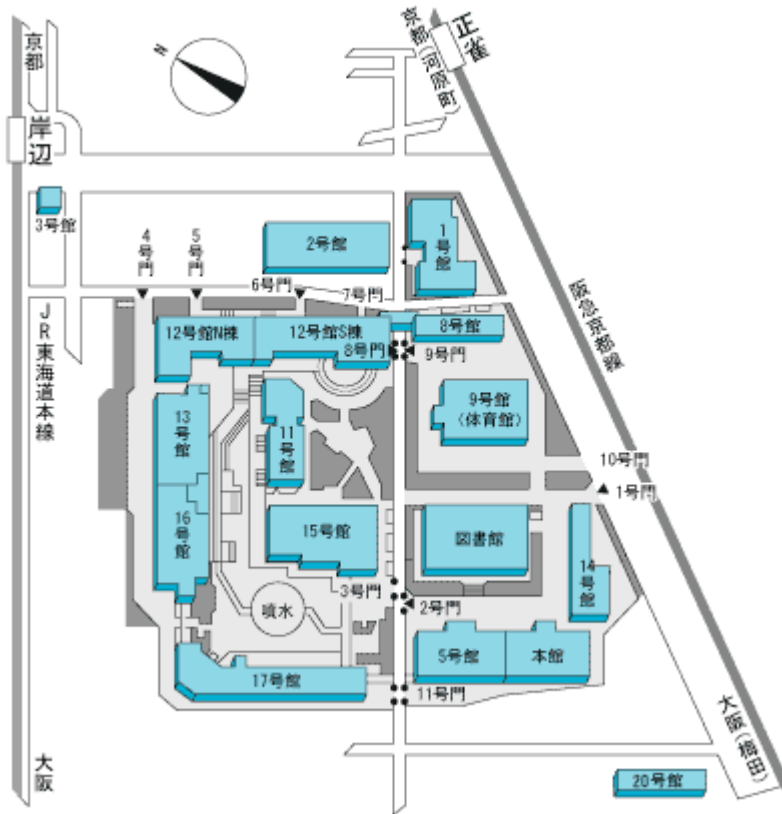
閉会の挨拶

東森 勲（龍谷大学）

会場見取り図 2号館

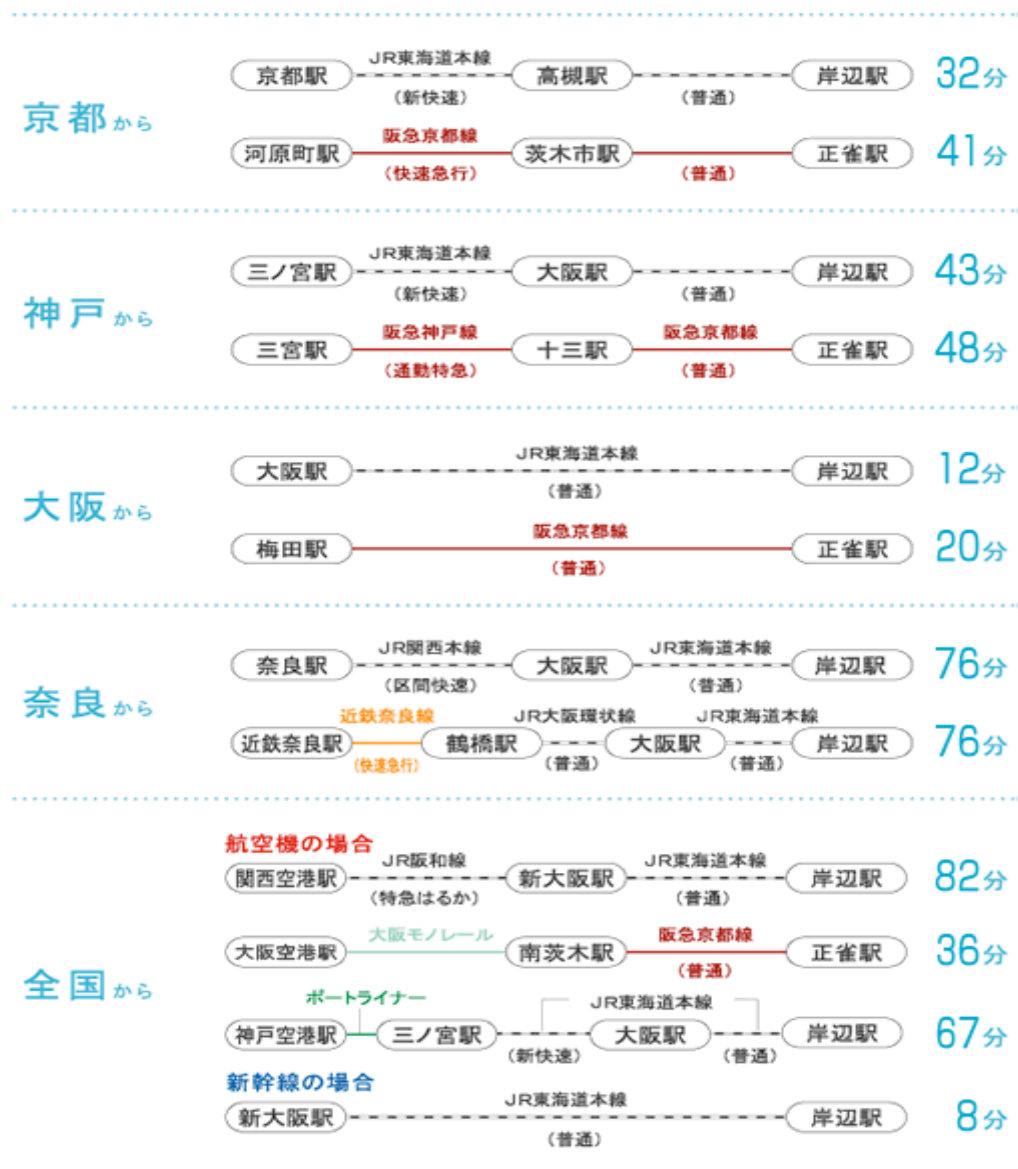


キャンパスマップ



大阪学院大学へのアクセス

JR 東海道本線「岸辺駅」・阪急京都線「正雀駅」ともに大学まで徒歩 5 分。



- 大会開催委員
- | | |
|----------------------|--------------------|
| 会場校開催委員：黒宮公彦（大阪学院大学） | 神田靖子（大阪学院大学） |
| 大会運営委員：久保 進（松山大学） | 小山哲春（京都ノートルダム女子大学） |
| 鈴木光代（東京女子医科大学） | 加藤重広（北海道大学） |
| 澤田治美（関西外国語大学） | 西光義弘（神戸大学名誉教授） |
| 井上逸兵（慶應義塾大学） | 名嶋義直（東北大学） |
| 林 礼子（甲南女子大学） | 長友俊一郎（関西外国語大学） |
| 野澤 元（京都外国語大学） | 金丸敏幸（京都大学） |
| 岡本雅史（立命館大学） | 高木佐知子（大阪府立大学） |

日本語用論学会会長 林 宅男（桃山学院大学）
事務局長：〒564-8680 吹田市山手町3丁目3番35号 関西大学 山本英一 研究室内
E-mail: psj.secretary@Gmail.com